

平成24年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	作業環境における個人ばく露測定に関する実証的検証事業		担当部局	労働基準局安全衛生部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度開始		担当課室	労働衛生課環境改善室		亀澤 典子		
会計区分	労働保険特別会計 労災勘定		施策名	Ⅱ-2-2 労働者が安全で、健康に働ける職場を確保する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	労働者災害補償保険法第29条第1項第3号		関係する計画、通知等	第11次労働災害防止計画				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	現行の作業環境測定による管理(場の管理)に限定することなく、欧米で採用されている個人サンプラー方式での測定による管理について、当該測定結果と現行の測定方法とを比較検討すること等により、個人サンプラー方式での測定を実施することが可能とできるか検討を行う。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	作業個人レベルのばく露状況を的確に把握することが出来るとされている個人サンプラー方式による測定方法について、各種作業形態及び作業場所において実際に測定を行い、その測定方法・測定機器・測定結果の評価方法などについて実証的に検証を行うとともに、現行の作業環境測定方式と比較検討を行うことで、今後の作業環境測定のあり方についての検討を進める上でのデータを収集する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算		20	17	11.8	10.4	
		補正予算						
		繰越し等						
	計			20	17	11.8	10.4	
	執行額			11.7	12.44			
執行率(%)			58.5	73.2				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	本事業は、個人サンプラーによる測定手法の将来的な導入に向けて、当該測定手法に係るデータ収集等、現段階では研究段階のものであり、よってアウトカムを設定出来る段階には至っていない。		成果実績		-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	本事業は、まだ国内で広く定着していない個人サンプラーによる測定手法について、現在行っている作業環境測定手法と比べての優位性、今後の導入に向けた実証検証等を行うものであり、定量的なアウトプットを示すことは困難である。 24年度事業の定性的活動指標として、個人サンプラーによる測定手法について、これまでの知見収集・実証検証等を踏まえて、測定方法をまとめたマニュアルを作成する。		活動実績 (当初見込み)		-	-	-	-
単当たりコスト	-		算出根拠		-			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	事業費	11.2	9.9	謝金単価等の見直しのため				
	消費税	0.6	0.5					
計	11.8	10.4						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	これまでの検証結果により、欧米で広く普及している個人サンプラーによる測定方法については、一定の作業形態において、現行の作業環境測定方法(場の測定)より優位にある旨の報告がなされたところであり、当該測定手法を開発・導入することにより、事業者にとってはよりの確に作業環境の実態把握が可能となり、このことは国民の利便にも資するものとなり、優先度が高いものである。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	作業環境測定方法については、現在、労働安全衛生法令で規定がなされているが、新たな測定手法の検討に向け、現在の新たな知見等を踏まえ実証的検証を行うものであり、よって国が実施すべきものである。
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	仕様書で求めた事業内容は実施したが、検討会運営や測定実施等について効率的に実施出来たため、当初予定額よりも少ない金額で実施した。
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	本事業は、一般競争入札(総合評価落札方式)により調達を実施している。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	—
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	本事業は事業者から徴収した労災保険料から経費を支出しているが、事業内容としては個人サンプラーを使用した作業環境測定手法の開発に向けた検証を行うものであり、これが実現すると、作業形態によってはよりの確に作業環境の実態把握が出来ることから、これは事業者及び労働者双方に有益なものとなり、受益者との負担関係は妥当である。
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	本事業は、個人サンプラーを使用しての作業環境測定手法について、現行の測定手法と比較を行いつつ検証を行うものであり、専門家を参集して実証検証を行うこととしており、実効性の高い手段としている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	—
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	—
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	—
		※類似事業名とその所管部局・府省名	—
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	本事業でまとめられた報告書は、引き続き個人サンプラーによる測定手法の開発に向けて検証を行っていく際のデータとして活用する予定である。	
点検結果	<p>本事業は平成22年度から行っているものであり、これまでの事業の成果として、現行の作業環境測定方法(場の測定)と比較して、個人サンプラーによる測定方法の方が、より適切に環境実態を把握出来る作業形態があることが判明している。引き続き、個人サンプラーによる測定手法の導入のあり方などに向けて検証を進め、今後のより適切な作業環境管理手法の導入に向けて必要な知見を集積すべく、実証的検証を進めていく必要がある。</p> <p>なお、不用率について、平成22年度と比して割合は減少してきており、引き続き適切な積算に努めてまいりたい。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	作業環境における個人ばく露測定に関する実証的検証事業については、執行状況を踏まえ、予算要求に反映させること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	謝金単価、旅費単価等の見直しを行った。		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	650-34	平成23年行政事業レビュー	953

※平成23年度実績を記入

厚生労働省
(12.44百万円)

事業管理、受託者への指導



【総合評価落札方式】

A.中央労働災害防止協会
(12.44百万円)

有識者を参集して検討委員会の設置・運営、実際の作業場にて測定・分析・評価の実施、結果の取りまとめ

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位:百万円)

A.中央労働災害防止協会			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
その他経費	実地測定及び分析費用、検討会会議費用、事業管理に係る人件費、通信費など	9.7			
旅費	検討会旅費、実地測定に係る旅費など	1.7			
消費税等	消費税等	0.6			
諸謝金	検討会出席謝金、執筆謝金	0.4			
管理諸経費	機材借料など	0.04			
計		12.44	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	中央労働災害防止協会	有識者を参集して検討委員会の設置・運営、実際の作業場にて測定・分析・評価の実施、結果の取りまとめ	12.44	1	92%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					